

カリキュラム・ポリシー(博士後期課程)

文学研究科宗教学仏教学専攻

【教育内容】

宗教学仏教学専攻後期課程では、特修科目の中から専修科目1科目を選定し、その研究指導12単位を必修とします。加えて、研究指導以外の科目から4単位以上選択履修し、合計16単位以上修得する必要があります。なお、博士論文は専修科目によって作成します。

【教育方法】

「研究指導」は、博士の学位請求論文の提出を最終目標とし、それに至るまでの段階として、担当指導教員より、学会発表や学会誌・研究会誌等に発表する原稿の指導が、個別に行われます。

【教育評価】

宗教学、仏教学、禅学いずれかの研究領域に関して高い識見を備えた研究を生み出すことのできる、自立した研究者であることが評価基準として求められます。

文学研究科歴史学専攻

【教育内容】

歴史学専攻後期課程では、特修科目の中から専修科目1科目を選定し、その研究指導12単位を必修とします。加えて、研究指導以外の科目から4単位以上選択履修し、合計16単位以上修得する必要があります。なお、博士論文は専修科目によって作成します。

【教育方法】

この「研究指導」においては、学術論文・博士学位請求論文の執筆・学会報告を主目的として、先行研究の分析・問題発見能力・史料の収集解説分析・論理的文章構成力などについて、担当指導教員による個別的集中的指導が行われます。

【教育評価】

新知見を提示し、研究者としての自立した研究活動や著しく高度な専門的業務に従事しうる能力を示すことができることが評価の基準となります。

文学研究科英語圏文化専攻

【教育内容】

英語圏文化専攻後期課程では、特修科目の中から専修科目1科目を選定し、その研究指導12単位を必修とします。加えて、研究指導以外の科目から4単位以上選択履修し、合計16単位以上修得する必要があります。なお、博士論文は専修科目によって作成します。

【教育方法】

博士学位請求論文提出、及びそのための重要なプロセスである学会報告や学術論文執筆を主目的として、院生の主体的な研究の進捗状況に応じて、担当教員が個別に丁寧に研究指導します。前期課程で培った英語運用能力、専門分野の知識、課題発見・解決能力を活かし、国際社会に対する高い見識と責任感をもって、先行研究の批判的検討、資料(文献、統計、聞き取り)の精緻な解説・分析をおこない、新規性に富んだ説得力ある研究成果として発表できるよう、定期的にディスカッションの機会をもち、適切な助言や指導をおこないます。

【教育評価】

学会での口頭発表、学会誌・機関誌への投稿など、自立した研究者として活動できること、およびより高度な専門的職業に従事するために必要な専門分野の能力を身につけていることが評価の基準となります。

文学研究科日本文化専攻

【教育内容】

日本文化専攻後期課程では、特修科目の中から専修科目1科目を選定し、その研究指導12単位を必修とします。加えて、研究指導以外の科目から4単位以上選択履修し、合計16単位以上修得する必要があります。なお、博士論文は専修科目によって作成します。

【教育方法】

研究指導では、博士の学位請求論文の執筆を主軸に学会発表や学術論文作成のための指導が担当指導教員により個別集中的に行われます。具体的には、課題に即した資料・先行研究の収集と読解、論理的な文章の構成方法について、また必要に応じてフィールドワークの指導等も行われます。併せて学位請求の条件となる査読付き学術論文の執筆についても助言と指導がなされます。これらの活動を積み重ね、最終的に独自の知見と独創性を示す課程博士論文を作成・提出することになります。

【教育評価】

博士後期課程にある院生には、学位規則以外に、知的探求心に基づく主体的な研究活動が要請されます。

学位授与に際しては、以下の点も考慮されます。

- ① 日本文化に関する高度な知識と幅広い教養を持ち、これを活用して、専門分野の研究を、独創的な視点から発展させる力を有すること。
- ② 日本文化研究に関して培った能力を、教育・研究分野における専門的職業人として社会に発信・還元できる人材であること。

心身科学研究科心理学専攻

(教育内容)

博士後期課程では、特定の専門領域において高度で専門的な研究を行うため、研究指導を各学年4単位、3年間で12単位必修としています。

(教育方法)

1年目に研究を進めるのに必須の基本的な知識と能力を養い、テーマを設定します。2年目にそのテーマに沿った具体的な文献研究、調査、実験、分析を実施し、3年目に博士論文として完成させることを目指します。これらの学修を通じて、先端的領域の研究者、あるいは高度な専門職業人へのステップを確実に上がっていくことのできる人材を育成します。

(教育評価)

先端領域の研究者、高度な専門職業人としての能力を多面的に評価します。博士論文の審査は、主査1名と、外部1名を含めた複数の副査が学位論文審査基準により行います。

心身科学研究科健康科学専攻

(教育内容)

健康増進科学研究あるいは言語遺伝情報研究の分野において、とりわけ高度な専門性を要求される分野における研究者に必要な実習および講義で構成されています。

(教育方法)

指導教員および関連領域の教員による研究指導を行います。研究中間報告会、研究報告会において研究に必要な発表と討論の能力を身につけます。研究成果を専門学会および学術専門誌に公開できるよう指導します。

(教育評価)

それぞれの担当教員が、学生の研究者としての能力を評価します。博士論文の審査は、主査1名と、外部1名を含めた複数の副査が学位論文審査基準により行います。

商学研究科

<教育課程の編成に関する基本的な考え方>

商学に関する様々な分野において研究指導を設定し、指導担当教員による個別の指導により、大学院生が学位論文作成と学位取得を達成できるように支援しています。また、幅広い学識を得てもらうために、上記分野に関する講義科目も設置しています。

<教育課程の実施に関する基本的な考え方>

- ① 専修科目を選択し、研究指導担当教員による個別指導を受け、商学分野における新知識の提示が可能な学位論文の執筆を行います。また、学位論文の作成のための研究経過などを記載した研究経過報告書の作成を通じて、研究計画を具体化し、研究活動を進めます。
- ② 講義科目を受講することで、専修領域以外の商学に関する知識を学び、幅広く豊かな学識を修得し、新知識の提示に役立てます。
- ③ その他に、博士候補者試験を行い、学位にふさわしい外国語能力を有することを確認します。また、学位論文の予備審査、報告会を実施し、学位取得のためのアドバイスを受けることで、より完成度の高い学位論文を完成させます。

経営学研究科

修了判定・学位授与の方針に掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

研究活動を通じて、研究者として自立できる研究能力を修得する。

【教育方法】

- ① 指導教員によるきめ細かい研究指導と関連領域の教員との研究交流により研究能力を高める。
- ② 研究成果を学会や専門誌にて公表できるように指導する。
- ③ 事前審査、事前報告会、予備審査、本審査等、多くの段階を経て、博士論文のブラッシュアップを図る。

【評価】

到達目標に応じた学修成果を複数の教員が多面的に評価する。

法学研究科

ディプロマ・ポリシーに則り、学位授与にふさわしい学生を育成するために、次のようなカリキュラム・ポリシーの下で教育を行います。

【教育内容】

3年間で、専修科目の研究指導12単位と法学研究特講(講義)4単位を修得し、博士論文を作成して合格することを修了要件とします。

【教育方法】

- ① 専修科目においては、学生による研究の取り組みに対する指導教員の個別的な指導を通じて、専修とする学問分野に関する極めて専門的かつ高度な知識の修得のみならず、論理的思考能力、問題発見・情報収集能力及び討論能力の向上を図り、博士論文を作成しうるだけの力量の充実を目指します。
- ② 法学研究特講においては、どの専修科目であっても、学生が研究に取り組む上で基盤となる法学の総合的な学識を養うことで、両科目の組み合わせを通じて、自らの学修を重層的に深めていくことができるよう配慮します。

総合政策研究科

博士後期課程では、修了認定と学位授与の方針(DP)に掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【内容】

- (1) 自立した政策研究活動を行うための指導を行います。
- (2) 総合性を担保するために、講義科目「人間科学特論」・「社会システム特論」の修得を義務付けます。

【方法】

- (3) 研究科担当全教員が出席する場での中間報告を学生に義務付けることで、博士論文作成のための研究進捗状況を研究科全体で確認します。
- (4) 博士論文審査には予備審査と本審査を設定して、十分な検討の機会を確保します。
- (5) 研究成果の専門誌での公表へ向けた個別指導を行います。

【評価】

- (6) 学修及び研究成果を複数の関連教員により多角的に評価します。